

## 1) 文型がわかる→訳し方が決まる!

### ■文型の基本訳

① S V	【基本訳】「SはVする」	※移動や存在の意味が多い
	(例) Mizuki lives in Nagoya now.	
② S V C	【基本訳】「SはCである／になる」	※be と become が代表例
	(例) Kouhei became a soccer player.	
③ S V O	【基本訳】「SはOを [に] Vする」	※英語界の「最大派閥」
	(例) We study English.	
④ S V O <sub>1</sub> O <sub>2</sub>	【基本訳】「SはO <sub>1</sub> にO <sub>2</sub> を与える」	※giveの意味が「共通因数」
	(例) I gave my wife a book.	
⑤ S V O C	【基本訳①】「SはOをCにする」	※makeが代表例
	【基本訳②】「SはOをCだと思ふ」	※thinkが代表例
	(例①) The news made Rei happy.	
	(例②) You will find this movie interesting.	

上記5つのパターンをまとめて「5文型」と呼びます。「英文を読解する」とは、その英文がどの文型かを判断し、それぞれの【基本訳】に単語の意味をあてはめることです。

### ■文の要素

S 主語 (Subject)	日本語の「何は、何が」にあたる部分。 <u>名詞が担当。</u>
	(例) <b>Gabriel</b> came to Nagoya this summer.
V 動詞 (Verb)	日本語の「どうする、どうである」にあたる部分。
	(例) Robert <b>teaches</b> physics at this college. Our cats <b>are</b> very cute.
O 目的語 (Object)	日本語の「何を、何に」にあたる部分。 <u>名詞が担当。</u>
	(例) We play <b>soccer</b> almost every day. Jurina reached <b>the theater</b> at five.
C 補語 (Complement)	日本語の「どんなだ」にあたる部分。 <u>名詞か形容詞が担当。</u>
	(例) My father is <b>a vet</b> . (例) His words made us <b>angry</b> .

「文の要素」とは5文型の「主要登場人物」だと考えてください。ここではどの要素をどの品詞が担当できるかを覚えてください。

## ■品詞の基礎知識

名詞	…SかOかCになる。 (例) <u>Everyone</u> has a <u>dream</u> . (SとO) <u>Socrates</u> is a <u>philosopher</u> . (SとC) Kimie was born in <u>Hamamatsu</u> . (前置詞のO)
形容詞	…名詞を修飾するかCになる。 (例) a <u>useful</u> book (名詞を修飾) This book is <u>useful</u> . (SVCのC) I find this book <u>useful</u> . (SVOCのC)
副詞	…名詞以外を修飾する。 (例) a <u>very</u> cute turtle (形容詞 cute を修飾) Aika dances <u>happily</u> . (動詞 dances を修飾) <u>Luckily</u> , I had a dictionary. (文を修飾)
前置詞	… [前] + [名] で形容詞句か副詞句をつくる。 (例) a cat <u>in the box</u> (形容詞句) go <u>to Namba</u> (副詞句)

英語には8つの品詞があるとされますが、ここではその中でも特に重要な4つを解説しています。これらを知ることで文型を正確に判断できるようになります。どうか面倒くさがらずに覚えてください。

## ■文型の判断法

(1) S V	→ S V	「SはVする」
(2) S V [形]	→ S V C	「SはCである／になる」
(3) S V [名]	→ S V C (S=[名])	「SはCである／になる」
	S V O (S≠[名])	「SはOを[に]Vする」
(4) S V [名] [形]	→ S V O C	「SはOをCにする」 「SはOをCだと思う」
(5) S V [名] <sub>1</sub> [名] <sub>2</sub>	→ S V O C ([名] <sub>1</sub> =[名] <sub>2</sub> )	「SはOをCにする」 「SはOをCだと思う」
	S V O <sub>1</sub> O <sub>2</sub> ([名] <sub>1</sub> ≠[名] <sub>2</sub> )	「SはO <sub>1</sub> にO <sub>2</sub> を与える」

文型とは一言で言ってしまうと、動詞を中心とした品詞の並べ方のことです(ですから、品詞をしっかり理解して覚えていないと文型はわかりません)。副詞は文の要素(S, V, O, C)にならない脇役なので、文型を判断する際は無視してください。

## ②「かたまり」に強くなるろう!

2語以上の単語が意味的にまとまっていて、その中にSVを含まないものを句、含むものを節といいます。ここでは句と節を区別せず、まとめて「かたまり」として扱います。

### ■名詞のかたまり

- (1) To study a foreign language is good for your brain.
- (2) The girls enjoyed dancing on the stage.
- (3) The problem is that we do not learn the lessons of history.
- (4) I want to start a blog, but I do not know what to write.
- (5) Where the scientist lives is a secret.
- (6) I wonder if Keiji will come to Yonezawa with us.
- (7) Whoever talks with Mr. Odagiri comes to like him.

(1)は不定詞句(名詞的用法)でSの位置に、(2)は動名詞句(Vingの名詞的用法)でOの位置に、(3)は接続詞thatが導く名詞節でCの位置に、(4)は疑問詞+to不定詞でOの位置に、(5)は間接疑問文でSの位置にあります。このように、名詞のかたまりはSかOかCの位置、つまり、主にVの前後に登場します。(6)のif節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここではOの位置にあるので名詞節です。(7)のwhoever節も名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここではSの位置にあるので名詞節です。

### ■形容詞のかたまり(後置修飾)

- (1) Minoru taught us the history of sugar.
- (2) Akane has a lot of birds to look after.
- (3) The cats playing in this room are all very cute.
- (4) Kazuma likes books written in English.
- (5) I have a friend who is a soccer player.
- (6) This is the bank at which my brother works.
- (7) I will never forget the day when I first met Taro.

(1)は前置詞句が、(2)は不定詞句(形容詞的用法)が、(3)は現在分詞句(Vingの形容詞的用法)が、(4)は過去分詞句(Vp.p.の形容詞的用法)が、(5)は関係代名詞節が、(6)は「前置詞+関係代名詞」で始まる関係詞節が、(7)は関係副詞節が、それぞれ名詞の直後にあります。このように、形容詞のかたまりは主に名詞の直後に登場します。日本語では「(クマについての)本」のように修飾語(カッコの部分)が名詞の前に来ますが、英語では a book (about bears) のように名詞の後ろに来ます。英語は「後置修飾」の言語だと覚えておいてください。

## ■副詞のかたまり

- (1) Fossil fuels are used in most countries.
- (2) I had few friends when I was in college.
- (3) I want to study in the U.S. to improve my English.
- (4) Seeing me, the baby began to cry.
- (5) Seen from a space ship, the earth looks blue.
- (6) If it rains heavily tomorrow, the game will be postponed.
- (7) Whatever Kenji may say, we shouldn't believe him.

(1)は前置詞句が文末(SV~の後)に、(2)は接続詞が導く副詞節が文末(SV~の後)に、(3)は不定詞句(副詞的用法)が文末に、(4)は分詞構文(Vingの副詞的用法)が文頭に、(5)は分詞構文(Vp.p.の副詞的用法)が文頭に来ています。このように、副詞のかたまりは主に文頭か文末に登場します。(6)のif節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここでは文頭にあるので副詞節です。(7)のwhatever節は名詞節になる場合と副詞節になる場合がありますが、ここでは文頭にあるので副詞節です。

## ★『英文法入門10題ドリル』『英文法基礎10題ドリル』

本書は、皆さんが英語を好きになる、英語ができるようになることを願って書きました。

前著『英文法基礎10題ドリル』はサッカーにたとえると、「パス練習、シュート練習」にあたります。本書『英文法入門10題ドリル』は正確なパスやシュートをするための「ボールを止める、蹴る」技術を反復練習によって習得するドリルです。つまり、英語を「読む、書く、聞く、話す」上で必要不可欠な知識を頭で理解し、体に覚えさせるのを目的とした問題集なのです。(『英文法入門10題ドリル』『はじめに』より)

## ★『英文読解入門10題ドリル』

本書では、まずは型どおりに訳すこと、つまり正確に「直訳」できるようになることを目指しています。よって、正解として提示した訳例は不自然にならない程度の直訳にしています。型にはめた訳ができるようになってから、より自然な和訳を目指した勉強に進んでください。いわゆる「守破離」の「守」が『英文読解入門10題ドリル』の目標です。(『英文読解入門10題ドリル』『本書の使い方』より)

